

(準備研究)

家庭養護におけるケア提供者支援に関する研究 —フォスタリングチェンジ・プログラムの日本導入へ向けて—

上鹿渡 和 宏*

Kazuhiro KAMIKADO

研究実績の概要

本研究は、英国においてその成果が実証されているフォスタリングチェンジ・プログラムの日本への導入に向けた準備のために昨年度から引き続き実施された研究である。

我が国の社会的養護体制において施設から地域を中心としたシステムの再構築が進められる重要な時期に、児童精神医学、児童福祉学の研究者である筆者が、海外での先行事例をモデルとして、子どもの最善の利益の実現に向けた社会的養護体制を確立し、個々の現場での実践を進展させることを目指した。

筆者はこれまでフォスタリングチェンジ里親用ハンドブックの翻訳出版、学会や研修会等でのプログラム周知、また、ファシリテーター養成コースへの参加と、日本への導入にあたってのフォスタリングチェンジ・チームとの交渉等、フォスタリングチェンジ・プログラム実施へ向けて様々な準備を進めてきた。日本へのプログラム導入にあたっては英国から講師を招いてのファシリテーター養成コースの実施とテキスト翻訳準備が大きな課題であり、外部助成資金の活用のためその申請準備が必要と考えられた。また同時にこのプログラム導入に向けて家庭養護移行で先進的取り組みを展開している地域、関係者との協働も必須と考えられた。

これまでの長野県内児童相談所での研修会やファミリーホーム協議会関東甲信越ブロック大会での講演等での反応からは、県内に限らず、本プログラム

へのニーズが高いことが確認できた。また、平成26年7月には福岡市で市民と行政協働の里親普及支援活動の中心として実績をあげ、多分野ネットワークをもとに里親研修の体系化に取り組んできたSOS子どもの村JAPANから本プログラムの研修依頼があり、筆者がファシリテーターとしてセッションを部分的に実施した。里親、児童相談所職員、子ども村スタッフと理事、福岡市子ども総合相談センター所長、子ども家庭支援センター長、研究者等の参加もあり、日本での実施を期待する声が多く聞かれた。その後も筆者は講演・研修会の度にフォスタリングチェンジについて伝えながら現場からの反応を待っていたところ、平成26年10月に再度SOS子ども村JAPANから、本プログラム国内実施に向けて協働の依頼があった。福岡市では里親委託率の急上昇に伴い里親ケアの質を維持するためのプログラムやサポートシステムの構築が喫緊の課題とされていたこともあり、また、子どもの村は、様々な新しい方法の取り入れに前向きで専門職も多くかかわっており、国内で最初のフォスタリングチェンジ・プログラム実施場所として最適と考えられ、本プログラム導入に向けて展開することで合意した。

家庭養護推進先進地である福岡市で様々な専門領域と現場の関係者からなるフォスタリングチェンジ・プログラム企画委員会を立ち上げ、里親支援の現状と課題を踏まえ、日本へのフォスタリングチェンジ・プログラムの導入方法の検討、テキストの監訳・発行作業、および、ファシリテーター養成セミ

*社会福祉学部准教授

ナーの企画・運営・評価を行うことを目的として日本財団に助成申請し平成26年度末に受理された。

懸案であったファシリテーター用テキストも翻訳出版に向けて準備を進行中である。また、本年度研究期間中、平成27年3月に渡英調査実施し、フォスタリングチェンジ・チームとの綿密な協議をもった。その結果、平成28年3月中旬から下旬の約1週間二人の講師の来日について承諾が得られた。平成26年度の研究目的であったフォスタリングチェンジプログラムの日本での実施に向けた外部資金の獲得は達成し、同時に、協働して継続的に取り組む実践の場も得ることができた。さらに、平成27年8月からの筆者の英国での研究に合わせて里親を対象とするプログラムへ継続的に参加し、平成28年3月に福岡市で実施予定の日本で最初のフォスタリングチェンジ・ファシリテーター養成コースに備える予定である。

なお、この間の成果については他の調査研究成果

と共に、2014年9月末に京都府立大学大学院公共政策学研究科へ提出した博士学位論文「欧州における乳幼児社会的養護の展開—調査研究・実践展開・施策策定の協働に焦点化して—」にまとめて報告した。

研究発表

雑誌論文

1. 上鹿渡和宏「フォスタリングチェンジ・プログラムの可能性」、日本ファミリーホーム協議会会報第5号、2014年、pp.10-13
2. 上鹿渡和宏「欧州における乳幼児社会的養護の展開—調査研究・実践展開・施策策定の協働に焦点化して—」、京都府立大学大学院公共政策学研究科博士学位論文、2015年、pp.1-137